
Love √ 2

Holy Nightmare

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Love√2

【Nコード】

N1725N

【作者名】

Holy Nightmare

【あらすじ】

高校生―生涯一度の青春時代

その時に会った、俺達
たかはしるい みずしまそう
高橋瑠偉と水嶋蒼。

笑って、泣いて、喧嘩もして
そして、互いに恋した。

英検1級、瑠偉と数検2級、蒼

究極の理系2人が織り成す

行くところまで行った恋の駆け引きは infinity ∞

出会い（前書き）

名前は違いますが、それ以外はノンフィクションです。

同性愛という物が主体の話になりますので、無理！という方はご遠慮下さい

出会い

最初は、ちょっとした共通点からだった。体育。俺としちゃあ、嫌いじゃない。むしろ、あの静止＋綿密な作業をする美術に比べたら大歓迎だ。

その日の体育は、マット運動。柔軟性を鍛えるぞ！と、体育担当の熱血は張り切っていたが：柔軟性の無い俺をどうしてくれよう。スポーツ全般、筋力勝負なら自信はあるんだが、マラソンと柔軟系は怪しまれるほどに出来ない。

そんな訳で、その日の体育はやる気が無かった。

「いーちにーさーんしー！！」

熱血が声を張上げれば、

『ごーろくしちはーちー！！』

それに答えるやる気のある生徒。高校生にもなってこんな掛け声いるのか？と毎度問いたくなる。やる気無し、柔軟性も無しの俺は片隅で一応の姿勢だけ取って眺めていた。

すると、

「高橋ィ！！」

熱血に気付かれた。

「ちゃんとやれちゃんと！！」

「いや、頑張ってますよ」

「どこが頑張ってるんだ？」

「自分なりに」

手を伸ばして触れるはずのない爪先を目指す。

「そんなのは柔軟じゃない！」 「：分かりましたよ。やりますやります」

渋々言っ、まあやる気無いが、吊る膝裏を我慢して熱血の目の前

だけ柔軟体操をした。

しかし、限界は限界で、元々無いやる気がマイナスの領域に入っていく。

「やってらんね」

ええい熱血が何だ と完全にさじを投げた時、ふと見た方向に、俺と同じくサボ：いや、見学に回った1人が視界に入った。

それが、蒼との出会いだった。

学園生活

その時はただ単に視界に入っただけなのだが、今思い返すと不思議な出会いだったと思う。

普通なら何かの縁で、とか通学路が一緒に、とか幼なじみ、とか：何かしら関わりのある形になるだろうと思うわけで。

まあ：普通じゃなくてこんなのもアリだろ。実際あったわけだし。

通っている高校は、普通の学校。特に何かの特色があるわけでも無い。

強いて言えば、妙な校則くらい。たまに矛盾してたりとよく分からない。まあ守ってる生徒は1年くらいだろう。

俺達の学年になると

『掟は破るためにある！！』

と迷言が生まれるくらいだ。

共学の事もあってか、学園生活は毎日のように何かが起こる。特に大学受験に向けて勉強が強化されると、キツイ勉強から現実逃避のためか噂などが絶えなかった。

俺としては、文理選択があると助かる。何ていったって、理系には現代文と古典が必要最低限しか無い。

古典が何よりも苦手な俺にとっては嬉しい事この上無い。英語はどっちにもあるが、苦にはならないので関係無い。

しかし：どこから聞き付けたのか、英語で困ると皆寄って集って俺の所に来る。

人に教えるのは、物分かりの良い人になるべくしたい。

昔っからのろのろするのが嫌いだったせいか、何事も手早く済ませたい質なのだが。

休み時間が終わると群がった皆が散り、席に着く。

はあ　と溜め息をつき、眼鏡を外す。

疲れる、というのが本音。

次の授業、数学も終わり、さっきの残りがまた押し寄せるかと身構えたが軍団は別の生徒へ流れていった。

蒼の元へだった。

外野から見ていると、1人に何人もが集まるとかなり凄い光景。

だから疲れる訳だ：と納得。

四方八方から質問飛んでくるんだもんな。

特に何も思わなかった俺は、教室を出た。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1725n/>

Love√2

2010年10月9日02時17分発行